

2. 活動報告（注1）

番号	2					
テーマ	らしさの探求（異文化）					
実施回数・期間 （注2）	令和7年4月～令和8年3月 ほぼ毎日					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス 6人	1歳児クラス 10人	2歳児クラス 11人	3歳児クラス 8人	4歳児クラス 6人	5歳児クラス 7人
活動内容 （注3）	外国人の先生と楽しくコミュニケーションをとる中で、自分たちとは違う文化があること、言語があること、コミュニケーションが楽しいこと、などを感じられるようクイズや歌、ダンスなどを交えて活動をする。活動を通して興味や好きにつながることもあり、探求につながる。詳細は報告書にて。					
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。					
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 英語講師の呼名等でお互いを意識したり、クイズで友達のことを知る機会を作ったりした。幼児クラスは疑問に思ったことを質問したり、調べたりする機会も作った。					
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。					
	※記録をどのように行ったか 主に写真と文章で行った。					
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。					
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 集中を促せるよう、指示をしないで自ら活動に参加できるような椅子の配置など座り方や、ダンスになったら動きやすい環境にチェンジするなど、英語活動を促すことより子どもが主体的に参加しやすい環境設定に工夫を凝らした。					
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。					
	※振り返りの実施方法 その日に感じたことを伝えあい、クラス会議で子どもの育ちや、改善点など具体的な話をし、報告にまとめた。					
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	※教諭や保護者等への共有方法 掲示板に報告書を掲示し周知をした。					
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。						
※継続的な実施のための工夫 子どもの育ちを振り返ることにより、次にすべきことが見えてくるが多かった。振り返りを丁寧に行うことで新たな問いや、環境設定につながった。						

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(異文化)ー表現

【問いを考える】

いつも聞いている言葉ではないけれど、どんなことを伝えているのかな？

2. 活動スケジュール

<0歳児6名><1歳児10名><2歳児11名>

2025年4月～2026年3月

6月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。制作の材料やPC、プロジェクター、スピーカー、いす、マットなどを用意する。

【探究活動の内容】

日本語ではない言語(英語)に触れ、ことばやジェスチャーへの興味関心を深め、どんなことを伝えているのかを感じたり、いつもとは違う言葉ではあるが英語の曲に合わせて歌やダンスを楽しんだりする体験をする。コミュニケーションを豊かにすることにつなげる。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

呼名に「くん」「さん」がつかないことも自然に受け入れ、名前が呼ばれることを楽しみに反応していた。始まりの「Hellow song」の「Hellow」が挨拶であるということに何となく気づき、日常の中で挨拶として発することで、保護者や保育者とコミュニケーションをとる2歳児の姿もみられた。体の部位を英語で聞きながら繰り返すことで「head」と聞こえたら頭を触る子どももいた。0.1歳児は興味のない子どももいたが、毎日の繰り返しにより「Hellow song」や「Goodbye song」ではじっと画面を見てからだを揺らしたり、真似をして踊ったりする姿がみられた。日常の保育の中でも手遊びなどに英語の歌を取り入れることもあるが、日本語同様自然に楽しんでいる。歌やダンスはアップテンポな曲調に惹かれるのか興味を示す子どもが多く講師の呼びかけに自然に応じ、保育者と一緒に子ども同士も笑顔を通わせながら英語に親しんだ。



5. 振り返り

活動開始のころは、いつも触れている言語ではない「英語」での問いかけや挨拶に戸惑う子どもの姿もあったが、すぐに慣れて保育者と英語の挨拶を交わしたり保護者に英語で覚えたことを伝える姿から、他言語でも素直に受け入れている子どもの柔軟性を感じた。活動の中で、歌を歌ったりダンスをしたりすることを特に喜ぶ姿があり、乳児期には言葉よりリズムのある音とともに体を動かしながら体験することが楽しみであり身につくことなのではないかと思った。また、自分の身体に関することの表現にもいろいろな言語があるということが自然に受け入れられる時期なのだと思う。乳児期の今だからこそ、いろいろな言葉やジェスチャーを体験することで、将来自分自身そしてどの人の体も心も大事にできるきっかけになるのではと思った。そして楽しみながら経験することの重要性も改めて感じた。引き続き、毎日英語に触れていくことと保育者のかかわりで子どもたちの姿がどのように変化していくかを観察していきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(表現)

【問いを考える】

いつも聞いている言葉ではないけれど、どんなことを伝えているのかな？

2. 活動スケジュール

<0歳児6名>×<1歳児10名>×<2歳児11名>
2025年4月～2026年3月
10月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。制作の材料やPC, プロジェクター、スピーカー、いす、マットなどを用意する。

【探究活動の内容】

日本語ではない言語(英語)に触れ、ことばやジェスチャーへの興味関心を深め、どんなことを伝えているのかを感じたり、いつもとは違う言葉ではあるが英語の曲に合わせて歌やダンスを楽しんだりする体験をする。表現やジェスチャーでコミュニケーションをとることを知る。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

毎日の英語の時間にも慣れてきて、「Hellow song」や「Goodbye song」を2歳児だけでなく1歳児も、0歳児もそれぞれに真似をして歌ったり体を揺らしたり、手をたたいたりする姿がみられる。英語の歌詞ではあったが日本語では聞きなれている「きらきら星」の曲では手できらきらと星を作り、音楽に合わせて体を揺らす姿がみられた。講師から「星はどこにあるの？」と英語で聞かれると、何を聞かれているのかな？と考えている様子がみられたため、保育者が「星はどこにあるのかな？」と伝え、指で上を指したり上を見上げたりして、講師に伝えようとしている姿があった。ダンスの時間は特に楽しそうで、保育者も一緒に大きく動きを見せることにより、全身を使って英語の曲に合わせて自分なりに楽しんで踊る姿がみられる。また、保育者が発音しながら歌ったり踊ったりすることで、子どもたちも動きに合わせて講師と同じように発音してみようとする姿がみられた。



5. 振り返り

英語の活動を始めて半年がたち、一日のルーティーンの中に「英語に触れる時間」ができ子どもたちも自然にそれを受け入れて楽しみにしている。「Hellow song」が始まると、それまで個々に遊んでいた子どもたちが一斉に画面を注視し思い思いに体を動かしたり楽しそうに歌ったりする姿をみて、毎日の積み重ねが大切だと感じた。また他言語であっても同じ意味を成す言葉を理解したり、ジェスチャーを使って相手に伝えることができる感じる事ができるこの時間は子どもたちにとってとてもわくわくする時間になっているのだとも感じた。日常の保育の中でも、英語の歌を取り入れたり英語の曲で体を動かしたりする環境を作り、保育者と一緒に「楽しい」という経験を積み重ね「この言葉は何を指すんだろう」「どうしたら伝わるんだろう」という子どもたちの探究心を自然に刺激していけるようにする。引き続きこの活動を行い、講師や保育者との関りの中で子どもたちがどのような姿をみせてくれるのかを観察していきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(表現)

【問いを考える】

いつも聞いている言葉ではないけれど、どんなことを伝えているのかな？

2. 活動スケジュール

<0歳児6名><1歳児10名><2歳児11名>
 2025年4月～2026年3月
 2月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。制作の材料やPC,プロジェクター、スピーカー、いす、マットなどを用意する。

【探究活動の内容】

日本語ではない言語(英語)に触れ、ことばやジェスチャーへの興味関心を深め、どんなことを伝えているのかを感じたり、いつもとは違う言葉ではあるが英語の曲に合わせて歌やダンスを楽しんだりする体験をする。コミュニケーションを豊かにすることにつなげる。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

毎日の英語の時間をとても楽しみにしている子どもたち。身を乗り出して講師の言葉を真剣に聞こうとしている姿がみられる。いつも見ている絵本が違う言語で読み進められていくことに不思議そうに見つめながら、「potato」や「tomato」の発音を、2歳児は講師による正しい英語の発音を聞いたうえで「ポテトだよ」「トマトだよ」と日本語で保育者に確認する姿があった。保育者が英語の発音を伝えると「違うよ、ポテトだよ」「トマトなの！」「と主張したり、少し恥ずかしそうに小さな声で保育者と同じように「ポテイト」と言ってみたりするなど保育者とのやり取りを楽しむ姿がみられた。一方、1歳児は講師や保育者の発音をよく聞き「ポテイト！」「トメイト！」と素直に言葉を真似しようとしていた。「For you」と食べ物を差し出す映像を見て、映像と同じように「For you」と言いながら保育者に両手を合わせてプレゼントしてくれる子どももいた。



5. 振り返り

一年を通して英語という日本語とは異なる言語に触れることで、子どもたちは音の違いや響きを楽しみながら言葉や表現への関心を高める姿がみられた。

2歳児は英語の発音を聞いたうえで、自分なりの言葉で応答し保育者とのやり取りを通してコミュニケーションを楽しんでいた。1歳児は保育者の言葉やジェスチャーをよく見聞きし、音をまねしようとする姿がみられ言葉を獲得しようとする過程が感じられた。0歳児は音に合わせて自分なりに体を動かし表現し楽しんでいる姿がみられた。それぞれの発達により違いはあるものの、音や言葉への関心が育っていることが感じられた。今後も言語の違いにとらわれず言葉やジェスチャーを通したやり取りを大切にしながら子ども一人ひとりの発達の違いに応じ表現する楽しさや伝えあう喜びを感じられるような関わりを行い、コミュニケーションを豊かにすることにつなげていきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(どうぶつ)

【問いを考える】

世界にはどんな動物がいますか？

2. 活動スケジュール

〈 3歳児 11名 〉

2025年4月～2026年3月

7月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じ用意する

【探究活動の内容】

園で導入している英語プログラムを通して、講師の住んでいる外国や異文化に興味を持つなかで、具体的に日本で見たことのない動物を知り、子どもたちの関心をさらに深める。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

ペルー、オーストラリア、エクアドル、南アフリカと4つの国が紹介されたが、子どもたちは「自分の住んでいる国」ではない国に興味を持ち「どこにあるんだろう？」と友だちと話ながらじっと映像をみつめていた。また、手遊び歌の「世界のこんにちは」を保育者が講師の真似をしながら歌うと、保育者と一緒に元気よく歌う姿もみられた。

各国の挨拶も紹介され、特にペルーの「オラ」は日本語の「おれ」のように感じたのか、楽しそうに発音して笑いながら友だちと挨拶し合っている子もいた。エクアドルの「リクガメ」に子どもが乗っている映像をみて、「うらしまたろうみたい」と日本の昔話の登場人物と重ねている子どももみられた。

ペルーの「アルパカ」に関するクイズでは、一人ひとりが「こっちだよ」「えーこっちだと思うよ」と感じたことを言葉に出している。保育者が「どうやって講師に伝えようか？」と聞くと、体を使って「まる」を表現していた。言語の違いにより「ことば」が使えなくてもジェスチャーで思いを伝えることができることを知ることができた。



5. 振り返り

まだ「日本」と「外国」の違いがはっきりわかっていない3歳児ではあるが、「こんにちは」という挨拶が、それぞれの国で違う「ことば」で行われていることを知り、クイズの答えを伝えるために、日本語ではない言語でそれを伝えるにはどうしたらいいのかを考える機会となった。子どもたちは、体を使って思いを伝えることができることに気づき、全身で「まる」を表現していた。また、クイズや数を数える遊びを通して日本ではみたことがない動物を楽しみながら知ることができたのは、異文化に興味を持つ素敵な機会になったと思う。引き続き、子どもたちの興味関心を深められるよう、世界地図や図鑑を使って、英語プログラムをさらに有益にしていける事前学習や事後学習を行い、自分とは違う存在、自分とは違う文化などを受け入れ理解していく大切さを感じられる機会につなげていきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(ふく)

【問いを考える】

世界にはどんな服があるかな?

どうして国によって違う服を着るのかな?

2. 活動スケジュール

<3歳児11名>

2025年4月～2026年3月

10月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

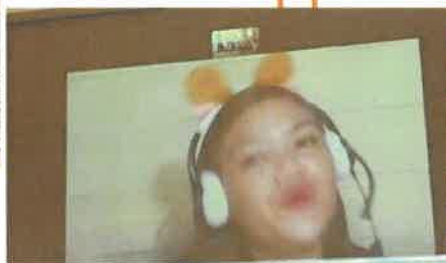
毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じて用意する。

【探究活動の内容】

写真や絵本を通して世界にはいろいろな衣装があることを知る。また実際に衣装を用意して着てみたり、ハロウィンなどのイベントに参加して異文化に触れることにより、子どもたちが何を感じるを観る

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

絵本や写真を通して日本の着物と韓国の着物の違いに触れたり、ハロウィンでの仮装している姿などを見たりする中で、子どもたちは次第に衣服へ興味をもつようになった。そして運動会ではハロウィンの衣装を着て踊りたいと子どもたちから声があがった。ハロウィンはどのような行事なのか、子どもたちと話し合うと「お化けがでる」「お菓子をもらう」など日本でもハロウィンイベントが行われていることから、楽しいイベントととらえている子どもたちが多くいた。実際に写真を見たり衣装を着てみたりすると「お姫さまみたい」「かわいい」など声があがった。海外の写真を見たり、由来を知ることにより興味をもつことができた。さらに外国人講師の英語活動を通して言語にも関心を示し、英語を真似して声にだす子どもの姿が多くみられた。韓国のヘンボク、ジョージアのチョハ、ベトナムのアオザイ、サウジアラビアのグトラなどの服を紹介してもらいながらクイズに参加し理解を深めていた。



5. 振り返り

衣装の違いについて「かわいい」「かっこいい」など子どもたちで話し合う姿が見られた。また、ハロウィンの衣装に関しても着ることによりハロウィンの世界に入りこんで楽しむ様が見られた。日本と世界の文化を衣装を通して異文化に少し興味を持つことができたので、今後、もっといろいろな世界の衣装を通して異文化を知ることができるよう活動を広げていきたい。また、zoomを通して外国人講師とやり取りすることにより言語にもより興味をもち取り組む姿が見られた。今後は衣装だけでなく食べ物やあいさつ、建物などにも関心を広げていきたい。服を紹介したりクイズを楽しむ中で背景(国の雰囲気)にコメントする姿もあったので、それぞれの国でどうしてその服を着るのかなどさらなる探求ができると良い。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(いえ)

【問いを考える】

どうして日本とはいえの形が違うのかな?

どんな家に住んでみたいかな?

2. 活動スケジュール

<3歳児11名>

2025年4月~2026年3月

1月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じて用意する。

【探究活動の内容】

写真を通して世界にはいろいろな建物や家があることを知る。また自分たちで考えた世界の家をブロックなどでつくってみることにによって異文化に興味を持つ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

はじめは動物が扉から出てくる絵本を通して「この動物はどんな家に住んでいるんだろうね」と話をひろげた。その後「今、住んでいるみんなの家はどんな家?」という質問に変えてみると「マンションの9階に住んでる」「2階建てだよ」など自分の家について話し合う姿が見られた。さらに保育者が「世界の家ってわかる?」と問いかけると「アメリカ!おばあちゃんが住んでる」「カナダ!おねえちゃんが住んでる」など身近な人が海外に住んでいることから「世界=自分たちが住んでいる場所以外にもある」という気づきに繋がった。そこで「どんな家があるんだろうね、みんなでどんな家があるか、こんな家に住みたいという家があったら作ってみようか」と提案し、ブロックなどの玩具を使って世界の家作りを行うと「カナダのおねえちゃんの家を作る」「宇宙の家を作る」など子どもたちが思い思いに想像を広げながら、楽しんで作る様子が見られた。その後、外国人講師による「せかいのすてきないえ」をテーマにした英語活動に参加した。プロジェクターを通して自分たちが作った家と世界の家の違いに気づき、建物の名前を知ったり、家が建っている環境の違いを知ることができた。世界の家に興味を持つ姿が見られた。「この家に住みたい」「この家の中はどうなっているのだろう」と興味津々な姿が見られ、積極的に英語活動に参加していた。



5. 振り返り

事前に住んでいるところについて考え、制作をしてからのプログラム参加だったことで参加への集中力が違ったように思う。衣服では「お姫様みたい」「かわいい」などの言葉があがったが、「せかいのすてきないえ」では世界の家をプロジェクターを通して見ることにより、建物の名前を知ったり、家が建っている環境の違いを知ったりして世界の家に興味を持つ姿が見られ、「この家に住みたい」「この家の中はどうなっているのだろう」と話し合う姿も見られた。この英語活動を通して世界にはその国の言葉、いろいろな衣装や建物があり、国によって違いがあることを知り、「もっと見てみたい」「ほかにどんな国があるのだろう」という異文化に興味、関心が高まったように感じた。子どもの興味から身体を使って広げ知識につなぐことなど、丁寧な運びの重要性も感じる事ができた。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(たべもの)

【問いを考える】

日本と違う国ではどんなものを食べているの?

どうやって作るのかな?

2. 活動スケジュール

<4歳児7名>

2025年4月~2026年3月

7月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じて用意する。

【探究活動の内容】

写真や動画を通して世界には様々な食べ物があることを知る。各国の伝統的な料理に興味をもち、使われている食材や作り方を知るなどして、文化の違いに興味をもつ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

給食のメニューを日々楽しみにしている子どもたち。「今日は和食メニューだね」と保育者がいうと、「和食ってなに?」と興味を示していた。そこで、日本の料理から世界の料理へと話を広げていく。今度英語の先生が世界のおいしい食べ物を教えてくれる回があることを伝えると「えー!」「たのしみー」とワクワクした表情を見せていた。保育者が各国の食べ物の写真を見せていくと「食べたことある!」「どんな味がするのかな」と思い思いに言葉にしていた。海外旅行の経験がある子どもは、自分の経験を嬉しそうに共有する姿が見られた。講師の問いかけにとっても積極的に答えながら参加する。町の映像とともに国旗が表示されると、「フランスかな」と自分の知識から予想し、引き出そうとしていた。最後にどの食べ物を食べたいかの質問では、指で番号を示しながら、講師との会話を楽しんでいた。「食べてみたいな」と世界の料理への関心を示していた。



5. 振り返り

食べ物という身近な題材から他国への興味関心を深めることができた。部屋に世界地図を貼り、日本との位置関係が分かるようにした。どこにある国の話かがわかると、子どもたちもイメージをもちやすくなった。また、ネイティブの発音を聞くことで、日本語と発音が似ている少しの違いを感じることができた。耳で聞いた講師の音をなんとなく発音してみても、講師との交流を図る姿がみられた。相手の国の言葉で相手の文化に触れる経験は、子どもたちの視野を広げると感じる。講師の質問に積極的に答え交流を楽しむ姿が見られ、講師との心の距離が近づいた時間となった。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(のりもの)

【問いを考える】

世界にはどんな乗り物があるのかな?

2. 活動スケジュール

<4歳児7名>

2025年4月~2026年3月

10月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じて用意する。

【探究活動の内容】

写真や絵本を通して世界にはいろいろな乗り物があることを知り、興味をもつ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

散歩時に見かける乗り物や保育室にある図鑑などによって、乗り物に興味を示す子どもたち。「この前タクシーに乗ったよ」と友達同士で会話したり「これはなんていう名前なの?」と保育者に尋ねて知ろうとする姿が見られた。そこで「世界には日本にはない乗り物もあるんだよ」と伝えると「えー!」「どんなのがあるの?」と興味津々で反応していた。世界地図を見ながら、その国がどこにあるのか探してみる。日本からの遠さに驚く子どももいた。その国の乗り物の写真を見せると、目をキラキラさせながらじっと見つめ、どんな乗り物なのか知ろうとしている様子であった。タクシーは、「日本にもあるけどちょっと違う」と話す子どもがいた。どんなところが違うと思ったのか聞いてみると、色の違いを話してくれた。ボリビアのロープウェイ、トルコの気球などにはあまり反応がなかったが、ラクダや犬ぞりなど、動物で移動する国の乗り物が出てくると、「タクシーだって!」と驚いたような声を上げ、特に印象に残ったようだ。



5. 振り返り

日本と他国の乗り物について、日本と似ている個所を探したり、まったく異なる文化に驚いたりしていた。なぜ日本とは違うのかを考えられるよう問いかけると「砂漠だから車が走れないのかもしれない」と話す姿が見られ、乗り物の背景に焦点を当てることができた。子どもたちの好きな乗り物を通じて、他国の文化へと興味を広げられるようにしていく。今回新たな乗り物を知ったことで、ブロックでその乗り物を再現し物語を自分でつくってごっこ遊びをする姿が見られ、興味が広がったことで遊びの幅も広がった。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(ダンス)

【問いを考える】

世界にはどんな踊りがあるのかな?

どんな衣装で踊るのかな?

2. 活動スケジュール

<4歳児7名>

2025年4月~2026年3月

1月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じて用意する。

【探究活動の内容】

写真や動画を通して世界にはいろいろなダンスがあることを知る。伝統的な衣装や特徴的な踊り方に興味を持ち、文化の違いに面白さを感じる。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

家庭で見たアニメの中でフラダンスを知った子どもが、「こんなダンスあるよ」と友だちの前で踊ってみせる。どんなところで踊っていたのか尋ねると「海の前で踊っていたよ」と話す姿がみられ、日本ではない違う国の踊りだと伝え興味を示していた。それをきっかけに、世界の様々なダンスの動画をみってみる。動画を見ながら「足がすごく早いよ」「こんな感じかな」と見よう見まねで体を動かしてみる姿がみられた。動画を見終え講師が、その国のダンスや衣装に関するクイズを出す。集中して動画を見ていた子どもたちは、自信満々に手を挙げて答えていた。最後に何の踊りが好きだったか講師が尋ねると「フラダンス!」「フラメンコ!」など自分の考えを伝え、それぞれやってみたい踊りや着てみたい衣装をあげていた。



5. 振り返り

もともとダンスが好きな子どもたちであり、日本とは異なる新しいダンスに触れてさらに好きの幅を広げることができたと感じる。ダンスの動き方や流れる音楽、踊る場所や衣装など、一つの動画から様々な情報を得て、違いを楽しむことができた。講師の住んでいる国のダンスも講師とのやり取りにより知ることができた。今後も言葉やジェスチャーを使い講師とのコミュニケーションを深めていきながら、異文化に触れる機会を増やしていきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(たべもの)

【問いを考える】

違う国ではどんなものを食べているのかな?

どうやって作るのかな?

2. 活動スケジュール

<5歳児5名>

2025年4月~2026年3月

7月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じて用意する。

【探究活動の内容】

写真や動画を通して世界には様々な食べ物があることを知る。各国の伝統的な料理に興味をもち、使われている食材や作り方を知るなどして、文化の違いに興味をもつ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

国旗に興味を持っている子が図鑑を見ながら、世界のどこにその国があるのか?と保育者に聞いたことから、世界地図を広げ、みんなで一緒にどこにあるのかを探すことを楽しんだ。世界にはたくさんの国があるけど日本とどんな違いがあるんだろう?と自然に疑問が生まれた。講師がドイツ、フランス、ベルギー、イタリアの4つの国のたべものについて教えてくれた。すると子どもたちは「食べたことある!」「あ、ピザだ!日本と一緒にじゃん」と思い思いに言葉にしていた。講師の住んでいる国(フィリピン)の食べ物も紹介され、「ハロハロ」というかき氷があることを知り、暑さを感じる毎日であったため、とても興味を惹かれ、「食べたーい」「おいしそう!」と興味をもつ様子があった。映像では実際にその料理を作っている様子を見ることができたので、「すごい窯の中でピザを焼くんだね」などと友だちと話しながら楽しんでいた。最後にどの食べ物を食べたいかの質問では、指で番号を示しながら、講師との会話を楽しむ姿があった。



5. 振り返り

普段から図鑑などを通して国旗に関心を持っている様子があったため、大きな世界地図を用意すると、自然にみんなでいろんな国の場所を探す遊びに広がっていった。日本と世界の国の違いについては、違う言語を使うことは知っているが、ほかにどんな違いがあるのかを今回は「たべもの」について講師から紹介してもらった。日本でも食べられるポテトフライやクロワッサンなどは、実際に食べたこともあり、慣れ親しんでいる様子がみられたが、初めて目にしたケバブなどは映像で映された作っている様子を見て「おいしそうだね」と興味深く見つめていた。引き続き異文化に触れる機会を設け、子どもたちが日本だけではなく世界の様々な国に興味を持ち探求活動を深められるように援助していきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(のりもの)

【問いを考える】

世界にはどんな乗り物があるのかな?

2. 活動スケジュール

<5歳児5名>

2025年4月~2026年3月

9月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

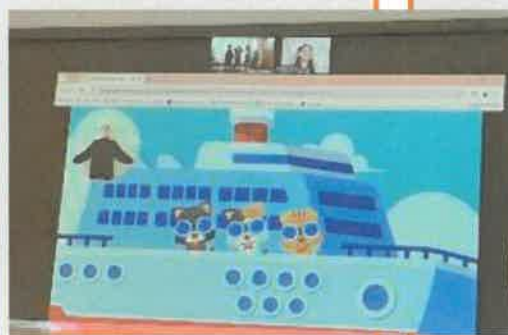
毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じて用意する。

【探究活動の内容】

写真や絵本を通して世界にはいろいろな乗り物があることを知り、興味や関心を持つ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

普段からブロックなどで乗り物を作って遊んでいることもあり、知っている乗り物を聞くと、たくさんの乗り物を答えてくれる。講師からノルウェー、イギリス、ボリビア、トルコの4つの国の乗り物を紹介されると、ノルウェーやイギリスなど各国の国旗や地図の場所をみんなで探しながら、それぞれの国の珍しい乗り物を写真で見る。「犬が引っ張ってる」「二階建てバスだ、知ってる!」と、楽しみながら見聞きしていた。講師とのやり取りでは、手を挙げて積極的に質問に答えていた。映像では実際に乗り物が動いている様子を見ながら「いいなー、乗ってみたいね」と友だちと話している姿もあった。



5. 振り返り

講師が見せてくれる映像では、実際に乗り物が動いている動画も見ることができて、子どもたちの関心がより深まっていたと感じる。雪国の犬ぞりや、砂漠を歩くラクダタクシーなど、日本とは異なる環境の国ならではの乗り物を通して、文化や環境の違いに興味を持つきっかけとなったのではないかと推測する。

世界の乗り物を知る活動を通して、自由遊びの時間に気に入った乗り物の絵を描いたり、レゴで作って友だちと一緒に遊んだりする姿が見られ、子どもたちの興味や関心が深まっていく様子を見ることができた。今回の犬ぞりから、段ボールそりを作り、後日公園で乗ってみる。犬ぞりではないが、坂を使ってそり遊びを楽しむことができた。引き続きさまざまな経験を積めるような機会をつくっていきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求ー異文化(ダンス)

【問いを考える】

世界にはどんな踊りがあるのかな？

2. 活動スケジュール

<5歳児5名>

2025年4月～2026年3月

1月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

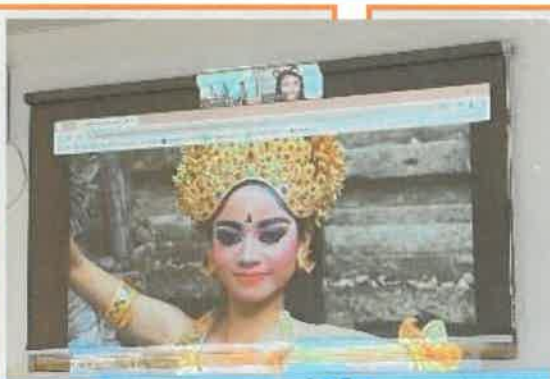
毎日15分間現地の講師との時間を確保する。PC、プロジェクター、スピーカー、世界地図、図鑑などを子どもたちの興味関心に応じて用意する。

【探究活動の内容】

写真や絵本を通して世界にはいろいろな踊りがあることを知り、興味や関心をもつ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

フラダンスの曲が聞こえると「あ、知ってる」「聞いたことある」と言葉にしなが、ダンスの動画を見て真似して踊っていた。更にインドネシアのバリネシアンダンスや、アイルランドのアイリッシュダンスなど各国の伝統的な曲やダンスの動画を見ながら、「楽しそう」「手がこんなポーズになってるよ」などそれぞれに感じたことを言葉にしていた。事前にクラスで予習をしていたこともあり、どこの国のダンス？と講師に質問されると積極的に手を挙げて答えていた。各国のダンスの動画に合わせて、友だちや保育者と一緒に真似して踊って楽しむ姿も見られた。ダンサーが着ている衣装にも「かわいいスカート履いてる」などと興味を持っていた。



5. 振り返り

今回もクラスで事前活動をおこない、各国の踊りを動画で見たり聞いたりする機会をもってから参加することで、講師が見せてくれる映像に対して興味をもって参加することができていた。体操やダンスが好きで普段からいろいろなダンスを楽しんでいる子どもたちにとって、世界の国々のダンスを知ることは、とても楽しいひと時だったと思われる。今後も「好き」なものをたくさん見つけていけるよう、いろいろな国々の文化に触れる経験をさせてあげたいと思う。そして、日本とは違う国を知り、違いを受け入れることが、自分とはちがう他者を受け入れることにつながってけるよう援助していきたい。